

2019年 10月 7日

2019年度 海外インターンシップ報告書

長野県立大学 グローバルマネジメント学部 グローバルマネジメント学科 1年

実習期間	2019年8月19日(月)～2019年8月25日(日) 7日間
実習企業	株式会社 近藤紡績所
実習地	KONDO TEXTILES VIET NAM CO.,LTD

1. 実習目的

Chapter1 purpose

現地での製品管理、品質管理について学び実践する。
 紡績工程について学び、実際に経験する。
 現地従業員との交流を通じて国際感覚に触れる。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

- 【名 称】 株式会社 近藤紡績所
 【住 所】 名古屋市中区丸の内2-18-25
 【会社設立】 大正6年12月24日
 【事業所】 本社 名古屋市中区
 国内事業所 大町工場（長野県大町市）【紡績】
 KSP徳島工場（徳島県）【縫製】
 海外事業所 中国（青島3社）【編立・染色・縫製・プリント】
 ベトナム 【紡績】
 インドネシア 【紡績】
 【事 業】 紡績事業・アパレル事業・リテール事業・不動産事業

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 19日(月) 移動 成田空港12時集合 15:25の飛行機で出発
 20日(火) 工場 梳綿工程・送綿
 防災 System について
 21日(水) 工場 製品の流れ
 RSB45/機能説明
 操業各種作業確認
 糸繋ぎ動作
 折り紙教室
 工場周辺の多国籍企業の工場観察
 22日(木) 工場 感度設定について
 検品・Packing 作業
 試験室・HVI 測定作業他
 改善提案活動報告 5件
 23日(金) 工場 空調・安全・原単位管理
 実習報告会/意見交換会

ベトナム戦争跡地 視察（クチトンネル）

24日（土）事務所（ホーチミン）

事務関係について・折り紙教室

25日（日）移動 0：05ホーチミン空港出発 8：00成田到着 解散

4. 実習内容

Chapter4 Laboratory

工場では“綿から糸”になる工程を学びました。

混打綿工程では輸入された原綿を調合しながら種やごみを取り除きます。



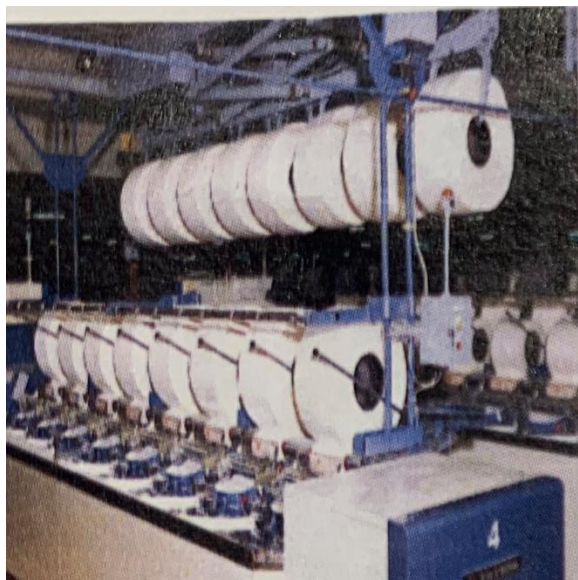
梳綿工程では綿の繊維を梳りながら、ごみや短繊維などを除去し、紐状の*スライバーにします。



** コーマ準備工程ではスライバーを集めて引き伸ばし、ラップ状にし、太さ、ムラを少なくします。



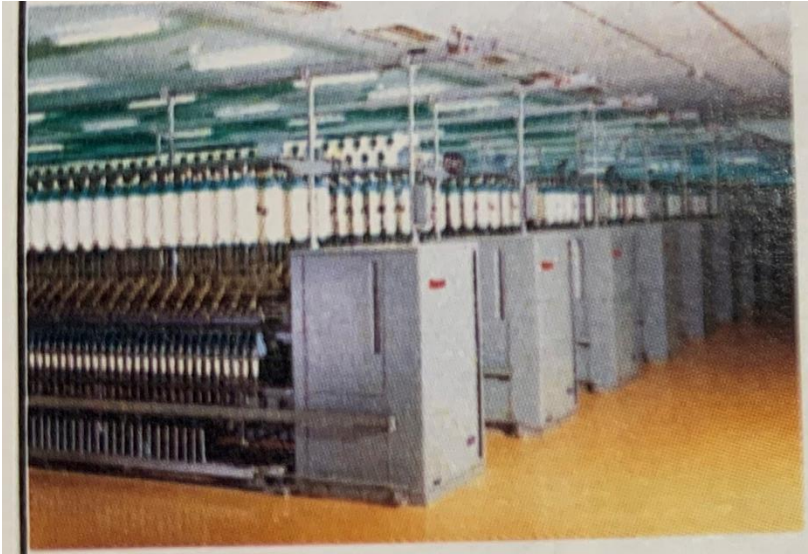
コーマ工程では繊維を梳（くしけず）りながら、艶のある柔軟なスライバーとし、高級繊維の風格を作ります。



練条工程ではスライバーを集め引き伸ばし、太さムラをなくし繊維を平行に揃えます。



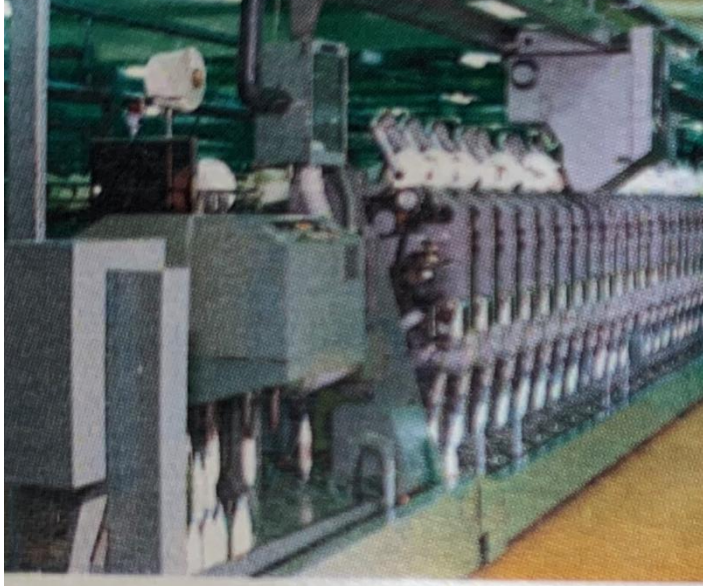
粗紡工程ではスライバーをさらに細く引き伸ばし、少し撚（より）をかけ、
***ボビンに巻き取ります。



精紡工程では粗糸を引き伸ばし、撚（より）をかけて糸とし、ボビンに巻き取ります。



最終の捲糸工程では管糸を商品として出荷できるよう規格に合わせて捲き直します。



- *スライバー：繊維を1本1本ほぐし、平行に揃えながら伸ばしたもの
- **コーマ：繊維の長さを均一に揃える機械
- ***ボビン：粗糸や撚糸などを巻き付ける筒状の糸巻き

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

私が1番海外インターンシップで成果があったと感じたのは、現地の女性従業員の数名と、インターンシップの休憩時間に折り紙と一緒に折れたことです。海外インターンシップに参加させて頂けると決まった時に、ただインターンに参加して帰ってくるだけでは意味がないと感じ、折り紙教室を企画しました。ベトナムでは当然、言語が違うため日本語の説明では通じません。そこで、自分がやっているところを見てもらいながら一緒に体験することができて、さらに日本ならではの文化を伝えることができる折り紙がいいなと思い、折り紙教室を計画しました。その希望を近藤紡績さんに伝えたところ、事前準備から非常に協力してくださって、2回開催することができました。

1回目は21日に工場で開催しました。ベトナム語で簡単な自己紹介を行って、折っている最中は通訳さんに翻訳していただき進めることができました。皆さん終わったら折り紙を持って帰りたいと言ってくださって、とても嬉しかったです。

2回目は24日にホーチミン事務所で開催しました。1回目の折り紙教室の反省点は、説明が通訳さん任せになってしまったこと、折り紙の種類が鶴の一種類だった、ということがあってその改善をして2回目に臨みました。まず、事務所の方々が英語を話せると聞いたので、折り方の説明を英語で準備し、折り紙の種類を4種にして、それらを事前に折っておいて紹介の時に見せることで1枚の紙から色々なものを作る折り紙の良さを伝えることができました。2回目の方がスムーズに進行することができて、作った折り紙を事務所に飾ってくださり、とても嬉しかったです。

折り紙教室を通じて、自分で計画して実行することの難しさとうまくいったときの達成感を実感しました。また、折っている最中は皆さん笑顔で楽しんでくれたので、楽しいことは世界共通だと感じました。



6. 今後の課題

Chapter6 problem

今回の海外インターンシップを通じて感じたのは、自己管理をしっかりしないといけないと感じました。事前準備の段階から多くのやり取りをメールを通じて行っていたので、メールを見るのが次の日になってしまったり、時間がない時に後で返信しようと思って、忘れて、返信が遅くなってしまったことがありました。社会人になるにおいて自己管理は当たり前のことではありますが、同時に重要なことであると感じました。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

ぜひ行くべきです。私も学校で行われた、1年生は自由参加のインターンシップ説明会に参加して、その時に配られた資料で偶然この海外インターンシップを見つけて応募しました。きっかけはどこにあるかわからないし、インターンシップに1年生から参加することは、就職活動プラス、自分の可能性を広げたり、自分が本当に将来なりたいものを探すいい機会になると感じます。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

今回、海外インターンシップに協力してくださった株式会社近藤紡績所の皆さん、長野県庁の皆さん、大学のキャリアセンターの皆さん、一緒に参加した小笠原さん、大変お世話になりました。皆さんのおかげでとても良い経験をすることができました。このインターンの経験を今後の自分のキャリア実現に活かしていこうと思います。本当にありがとうございました。